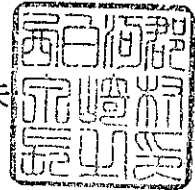


20建第823号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長様

福島県泉崎村長 小林日出夫



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

このことについて、別紙のとおり回答いたしますのでよろしくお取り
計らい願います。

必要な道路は整備する方針のようですが、本村を縦断する国道4号線は、原油高などの要因により交通量が増し、交通事故が対前年比1.5倍と増加しており、一部を除き歩道も未整備であります。

関東圏である栃木県は北部近くまで四号バイパスが供用開始され交差点も立体交差化されておりますが福島県においては、人口や渋滞状況で優先箇所を決定していると思われませんが、県北・県中はほぼ四車線化が済んでおりますが、県南地区は白河市や鏡石町で緒に就いたばかりであります。

我が泉崎村は通過市町村の中で一番人口が少なく片側一車線で歩道も未整備区間がほとんどであり、このペースではあと半世紀たっても四車線化は困難だと思われま

す。道路整備の目的税である道路特定財源（暫定税率も含め）が昨年度は道路整備以外に6千億強も支出されたと聞いておりますが、予算があるなら地方整備局へ追加配分するなりして、地方の幹線道路整備を促進してほしい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

福島県泉崎村

○現状

本村の国道については、国道4号線のみで片側一車線で歩道整備区間も一部ではありますが、舗装率は100%で県道についても同様で舗装率は100%ですが歩道の未整備区間が多いのが現状です。

また、村道については、舗装率 69.2%で近年新たな道路改良事業は殆ど行っておらず、維持管理事業を中心に舗装改良事業を一部実施しており、

更に地域住民からも新たな道路建設よりも生活道路の拡幅や交通安全上の危険交差点等の整備を要望されており、優先順位により段階的な整備を図っております。

○課題

国道については、交通事故が多発しており集落沿線については歩道整備を住民より要望されております。

県道についても通学路の歩道未整備区間があり要望しているが着手には至っておりません。

村道についても本村が平成12年より自主的財政再建計画を策定し、以来再建達成に向け厳しい財政運営を行っているところであり、財政的に単独事業は必要最低限で行っております。

また、村内には整備したい路線が多々ありますが補助事業要件の広域的路線ではありませんので単独事業で実施せざるを得ないのが実情です。

このことから、同一市町村内であっても幹線道路と幹線道路を結ぶ連絡道路も交付金事業の対象にし、更に過去に舗装改良した路線の舗装打替時期が来ており、このような一部幹線村道についてはケースバイケースでミニ交付金事業のような事業を創設し、財政的な支援を図ってほしい。

全国的な少子高齢化時代に入り本村においても人口が微減しており、この傾向が今後も続くと思われる。

今後の地域の目指すべき姿は、現在までにバリアフリーを公共施設建設に組み入れたり既存施設の改修をほぼ終えているので、今後は、道路整備上、道路は交通機能のみではなく住民のコミュニケーションの空間をなしているため歩道等の段差解消や生活道路としての安全対策を地域に見合った形で整備し、安心安全な地域づくりを目指したい。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

福島県泉崎村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
検討中		検討中	